代表質問・質疑

日本共産党
沢井　清美　議員

後期高齢者医療制度

問　四月から七十五歳以上が加入する後期高齢者医療制度が開始されるが、この制度については、本市議会をはじめ国会においても、さまざまな問題点があるとして見直しを求める声が上がっている。

　加入者一人一人が保険料を負担することとなるが、未納者に対しては、被保険者証の返還が求められるなどの措置が取られることになっている。また、これまで無料で行われていた健康診査についても、自己負担が必要となる。市としてどのように対応するのか聞きたい。

答　保険料未納者への対応については、必ずしも納付期限経過後すぐに被保険者証の返還等の措置を取るのではなく、個々の事情を踏まえ、きめ細かい納付相談等を行い、対応していきたいと考えている。

　また、健康診査については、費用の三割を自己負担基準額としているが、各市の受診実績と被保険者の人数に応じて、広域連合からの補助金が加算される。本市では、被保険者数が比較的多いことから、補助金により受診者の自己負担額を少なくすることが可能となる見込みで、二十年度は自己負担なしで受診できるようにする予定である。

その他の項目
○新年度予算

高齢者施策の充実を

民主連合
尾仲　利治　議員

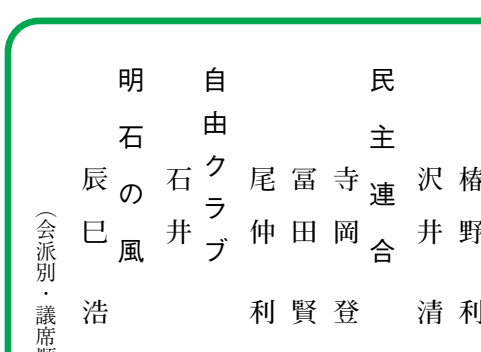
市民病院産婦人科分娩休止

問　市民病院の産婦人科では、今年六月からの医師の確保が困難となり、分娩を休止しなければならないとのことだが、安心して生み育てるまち明石を実現する中核病院として、市民病院をどう認識しているのか。また、分娩休止を避ける対策を考えているのか。

答　地域の中核病院として市民病院には、開業医ではできない高度機器や技術を用いた診断や治療などによる市内の開業医のバックアップを受け持つこと、救急などの急性期医療を担うこと、地域の医療技術者の技術向上を図るための研修を行うなどの機能を受け持つことが求められていると認識している。

　分娩休止を避ける対策としては、市民病院の医療業務に従事しようとする者に対して修学資金を貸与する制度の創設や、京都府立医科大学をはじめ、他の大学へも医師派遣の要請を重ねるなど、医師の確保に努めるとともに、当院助産師の活用も図りながら、できるだけ早期に分娩が再開できるよう最大限努力し、安心できる医療体制の構築に全力で取り組んでいきたいと考えている。

その他の項目
○市長公約の55ビジョンと明石市第4次長期総合計画
○食育の推進


中核病院としての役割を担う市民病院

市議会を傍聴しませんか

　市議会の定例会は、年に四回（六月、九月、十二月、三月）開催されます。日程は議会運営委員会で調整し、決定されます。詳しくは、市議会のホームページや市議会だよりでお知らせしています。

傍聴Q&A

Q　本会議を傍聴するにはどうすればいいですか。
A　議会棟三階の傍聴者ロビーで受付簿に氏名、住所、年齢を記入していただくだけです。

Q　委員会も傍聴できますか。
A　できます。委員会室で受付をしていただきます。

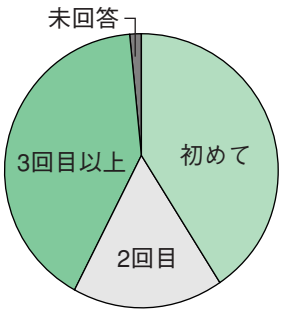
Q　会議が終わるまで傍聴席から出られませんか。
A　傍聴席の出入りは自由です。

Q　傍聴するとき子どもを預かってもらえますか。
A　市役所一階の来庁者用の保育ルームをご利用ください。

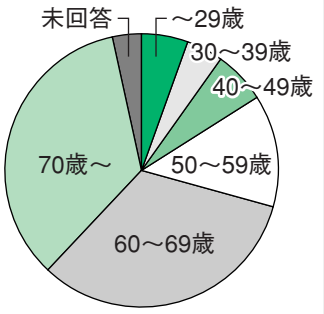
Q　会議の様子を撮影できますか。
A　許可なく撮影や録音することはできません。

平成19年度傍聴者アンケート

Q　傍聴は何回目？



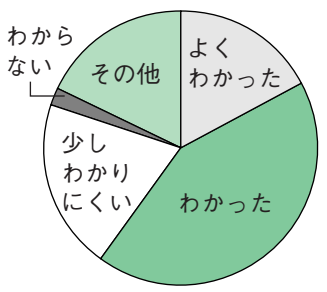
Q　年齢は？



平成19年度傍聴者数

6月定例会	210名
9月定例会	146名
12月定例会	115名
3月定例会	135名

Q　内容は？



（会派別・議席順）

会派	議員
新政会	千住　啓介
	三好　宏
	深山　昌明
	坂口　光男
	山崎　雄史
	榎本　和夫
	井藤　圭滋
	住野　勝美
公明党	尾倉　あき子
	国出　拓志
	絹川　和之
	佐々木　敏
	松井　久美子
	梅田　宏希
新風次世代	木下　康子
	中西　礼皇
	山根　金造
	大西　洋紀
	出雲　晶三
市民クラブ	新田　正彦
	北川　貴則
	永井　俊作
	遠藤　恒司
日本共産党	辻本　達也
	椿野　利恵
	沢井　清美
民主連合	寺岡　登史
	冨田　賢治
	尾仲　利治
自由クラブ	石井　孝
明石の風	辰巳　浩司